

CMSを合理的に選択するための指標策定

日立システムズ

小濱 裕太

yuuta.kohama.ev@hitachi-systems.com

開発における問題点

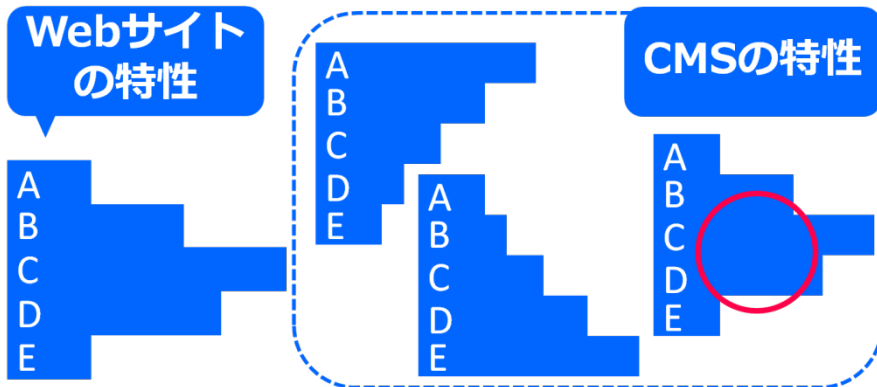
Webサイトの構築や運用コスト削減等に有効なCMS(Content Management System)を選択することは難しい。

手法・ツールの提案による解決

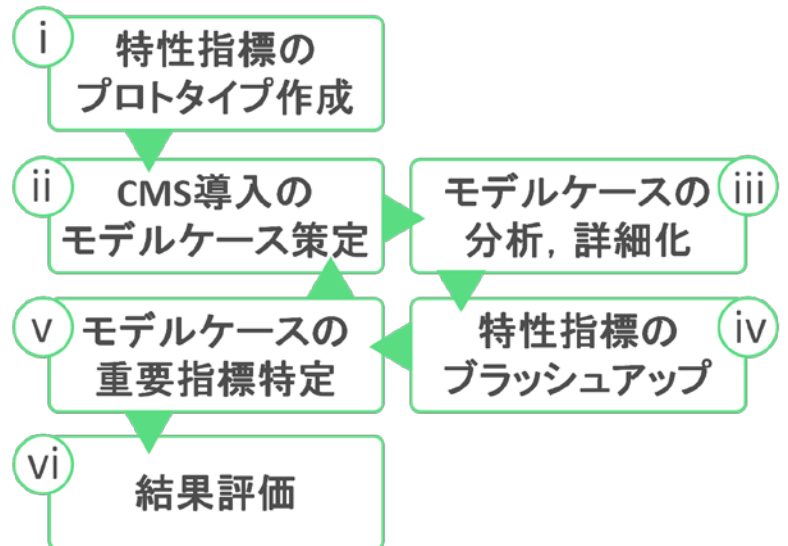
WebサイトとCMSのそれぞれが持つ特性を、同一の尺度で整理できる指標を作成する。

指標利用のイメージ

策定する特性指標のリストを利用して、WebサイトとCMSの特性を整理すれば、比較が容易になる



指標策定へのアプローチ



成果

- WebサイトとCMSの評価に利用できる18の特性を策定した。(下表はその一部)
- CMS導入のモデルケースにおいて、どの特性が重要視されるのかを特定した。

#特性リスト	特性の具体的な内容
1サイト規模や目的の一致度合	何のため(業界など)のCMSであるかが一致している 構築期間
2承認フローの組織への一致度合	承認やワークフローのカスタマイズできる範囲
レスポンス, スループット, ターンラウンドタイム等を高速化する仕組みがあり実現できる度合	静的ページと動的ページの使い分けや ページキャッシュ ディスク高速化(HDD/SSD) 高速化ツール(Google mod_pagespeed等) 3 プロトコル(HTTP1.1/ HTTP2.0/ SPDY等)等

評価・課題

評価

システム開発ベンダーの方より、以下の評価コメントをいただいた。

- 以前よりCMSを評価できるものが必要だと認識していたため、特性リストの重要性がわかる。
- 項目数が少なく使いやすそう。
- ビジネスで使うには、各特性がビジネスにどう結びついているのかを分かるようにしてほしい。

課題

- 特性リストの有用性や妥当性の検証
- WebサイトやCMSを特性リストに落とし込む手順の簡単化